

② 入試区分

編入学（Ⅲ期）

③ 出題科目

小論文

④ 出題の意図

古典～近代の日本文学・日本語学の専門的な学修を、日本文学科三年次に編入学して進めていくために必要な能力を測ることを目的としている。高校教科書等で学習することも多い古典文学作品の一節を読み、問いの指示に従って分析・考察し、それを指定の字数で過不足ない文章にまとめ、記述する。的確な読解、分析・考察の妥当性、文章の構成・表現・表記の適切さを見る問題となっている。

文学部日本文学科編入学試験問題

次の文章は、『枕草子』の一節である。各季節に示される変化や推移、あるいは対比について考察しなさい。解答に際しては、まず解答用紙の(梗概)と記してある箇所に続けて本話の要約を示し、続いて(考察)と記して必要に応じて本文を引用しつまとめること。字数は全て含めて四百字以上五百字以内で、解答は解答用紙に記入しなさい。

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、少しあかりて、むらさきだちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言うべきにあらず。

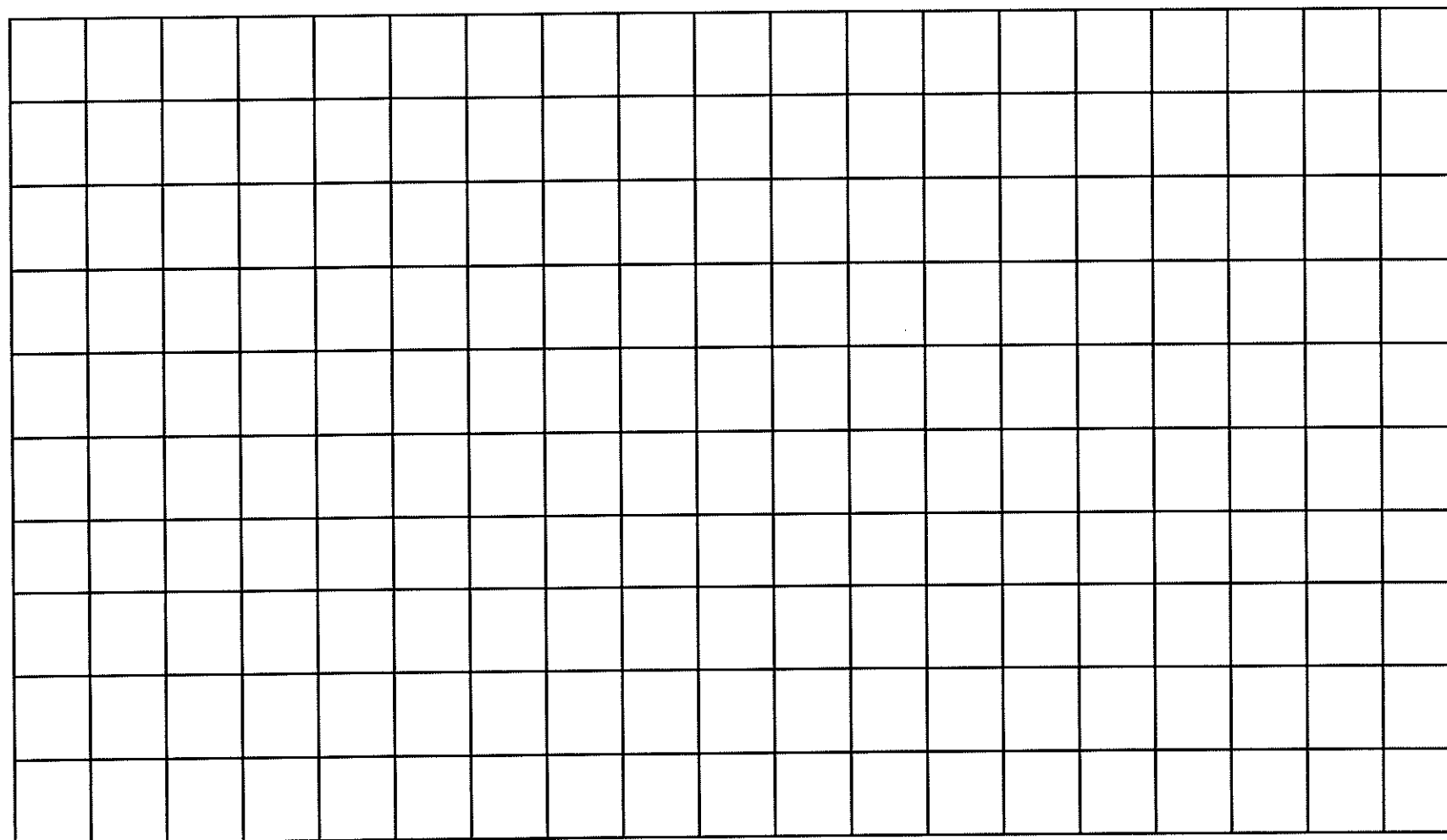
冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいとしろきも、またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火もしろき灰がちになりてわろし。

文学部日本文学科編入学試験解答用紙

受験番号

																	(梗)
																	(概)

--	--	--	--	--



採 点 欄

四
百
字